稲わらや籾殻は燃やさず
有機物として還元・循環しましょう

10ａ当たり約500kgあるとされている稲わらは、燃やすと無機物となってしまい、土づくりの効果は期待できなくなります。

稲　わ　ら・　籾　殻

◈すき込み利用

①稲刈り終了後、なるべく早くすき込みましょう。
土壌中の微生物の活動が活発な、地温15℃以上が確保できる時期の10月下旬～11月初旬までに行いましょう。

②すき込みは５～10cm程度の浅耕としましょう。
作業効率や腐熟の促進のために浅耕が好ましく、さらに、石灰窒素を10ａ当たり10～15kg施用することで分解が早まるとされています。

◈畜産の粗飼料や敷わら、堆肥としての利用

・繁殖牛や飼育牛の粗飼料や、敷料、果樹・野菜の敷わら、又は堆肥の原料としても利用できます。